

お正月にはお屠蘇を呑もう

病息災を願い、年少者から呑んでゆきます。

お正月に呑む「お屠蘇」は、平安時代に宮中では始められ、庶民に広がったのは江戸時代と言われている。お酒に良い香りがついて、きっと名中医師・華陀(かだ)の処方といわれていま今で言うハーブ入りカクす。

もし、お屠蘇が余ったしまったら、小さな袋に入れて、匂い袋にしてみてください。邪を追いかけてください。

「屠蘇」には、

邪気を追い払い、生気を蘇らせるといった意味があり、屠蘇散は気をめぐらせて、胃腸を温めながら、風邪を追い払う処方となっています。山椒、ミカンの皮、シナ



<第四十話>

それでは、新しい年もまた、家族でお屠蘇を楽しみながら、皆さまの心と体の健康を祈願します。

テルヤリキュールのような感覚で流行ったのではないかと想像します。

よい年をお迎えください。

椒、ミカンの皮、シナ

「お屠蘇」は、お正月

.....

モンなどが配合されていて、とても良い香りがします。

の朝、屠蘇散をお酒やみりんに数時間浸して、生薬の風味が出たところ

◆飯島仁生堂薬局本店
足立区千住1-29-2
☎03-3881-2273

お正月にお屠蘇を呑

で、一年の健康長寿、無

<http://www.jinseido.co.jp>